



矢部川新聞

第14号

発行 矢部川をつなぐ会
 HP <http://www.yabegawa.net/>
 Blog <http://yabegawa.jugem.jp/>
 発行責任者: 松富士将和

事務局/山村塾・小森
 〒834-1222 八女市黒木町笠原
 9836-1 えがおの森内
 TEL/0943-42-4300
 mail/info@yabegawa.net

～矢部川新聞は「山から海まで未来につなぐ 矢部川をつなぐ会」が発行する流域の情報誌です～

矢部川は、久留米藩・柳川藩の境川として流域独自の文化や自然を育み、廻水路などの歴史的な施設や、寺社や祭り、固有の生物種などの「宝物」が地域で大切に継承されています。

矢部川をつなぐ会は、矢部川の自然景観を守り、文化を守る活動をしている流域の団体が、矢部川の水の恵みに感謝し、次世代に継承するために、平成17(2005)年11月に発足したネットワーク、令和2(2020)年、創立15周年を迎えました。

コロナ禍となり、活動が制約され、毎月の例会やミニ講演会も半分以上がオンライン会議となり、現地見学会も出来ず、講演会もオンラインでのセミナーになりましたが、今後も矢部川のために頑張るつもりです。ご支援、よろしくお願致します。



矢部川をつなぐ会セミナー
令和2年7月豪雨と流域治水を考える
 2020年
12月13日(日) YouTube Liveにてライブ配信
15:30~17:30 <https://youtu.be/5K9r96c1U1E>

令和2年7月豪雨は7月3日から7月31日にかけて、熊本県を中心に九州や中国地方に大きな被害をもたらしました。特に熊本県では、2箇所が浸水、11箇所が倒壊、約1060haが浸水するという未曾有の被害がもたらされました。浸水の深さもこれまでにならぬ規模で、最大5mにも達していると報告されています。浸水被害の多発に加え、土地利用の定常化によって洪水リスクの高い場所も生活圏になってきたことが言われています。

こうした中、住民参加、多自然川づくりの観点から取り組まれてきた島谷幸幸から、10名の河川研究者によって、流域治水の持続的発展のための流域治水に関する課題「早く流す治水から 早く流す治水へ」が熊本県知事に提出されました。背景には、土地の高度化や水田の灌漑水利用など多岐にわたる課題を踏まえて、都市や地域の魅力を損なわず、地域全体で新しい治水に取り組むことが重要であると書かれています。

今回のセミナーでは、島谷教授から豪雨と流域治水について、また矢部川の流域治水をどのように考えるかお話しただきたいと思っています。セミナー後半では、ライブ配信視聴者と会場に集まる矢部川をつなぐ会関係者からの質問や意見を交え、流域治水の可能性や課題を考えたみたいと思っています。皆様のご参加をお待ちしております！

コロナ禍のため、YouTubeによる初めてのライブ配信で、水郷の里、柳川市の川下りの水路横の大東エンタープライズさんの食事処を会場にして開催しました。会場には天井や壁面に水車が飾ってあり、柳川らしい雰囲気が出されています。

矢部川をつなぐ会セミナー
令和2年7月豪雨と流域治水を考える
 講師: 島谷幸幸氏(九州大学大学院工学研究院教授)

矢部川流域、それから今年の水害に遭った地域の被害のことを考えようと、九州大学の大学院工学研究院の島谷幸幸先生にお話を頂きました。

先生には球磨川流域の持続的発展のための流域治水に関する提言「早く流す治水から ゆっくり流す治水へ」に基づく話と、流域治水に基づく町づくりのお話をして頂きました。

この事業は、国土交通省筑後川河川事務所令和2年度矢部川防災意識啓発委託事業として実施しました。



質疑

Q:水の会・平野 年配の方達から「昔は堀の水が多かった。よく流れていた」という話が良く出るが、流域治水と何か関係があるでしょうか。

A: 地下に入っていく水量が減れば川の水量も減る。

Q:がんばりよるよ星野村・山口 「耕作放棄地をどう管理するか」は、矢部川で試してみたりする機会が出来たらよいと思っています。

A: この機会に皆がいろんなことを提案して新しい制度をつくって、農業が続けられるように治水投資してもらおう形がいいかなと思っています。

司会 YouTuberから
 「耕作放棄地と水田の保水量の違いはどの程度ですか」

A: 増本さんの研究によると、濁水でひび割れができてくるような状態の時を除いて、流出量は増大する。2〜2.5倍という研究例がある。

Q:野鳥の会筑後支部・松富士 今年の久留米水害は、排水の問題(潮・有明海の干満の問題・満潮時に排水出来ない)で起きた。対策は?

A: 都市の流出抑制、周辺の農地の流出抑制をやることによって被害は軽減できると思っています。グリーンインフラはここ10年世界中で進んだが、日本だけが遅れた。これは東日本大震災があつて政策転換ができなかったというところが大きい。どこかの流域治水で一気に変わる可能性はあると思う。

Q:司会 穴あきダムについての効果と環境への影響は?

A: 穴あきダムは、ダムの下部に穴があり、洪水の時には、その穴の大きさ分の水しか、下流に流れないため、川の洪水流量を減らすことができます。

また、平常時に貯水しないため、貯水によって起こる環境問題(プランクトン発生など)は生じません。しかし、穴のつくり方によっては、魚が上下流に移動できないことがある。また、上流に土砂がたまり、下流が細粒化する。

洪水調節が頻繁に起きるとダム下流の瀬淵の規模が小さくなるなどの課題があります。

Q:チャット質問 球磨川では、中洲だった遊水地に住宅が建ったのが被災している。移転した方が良いのではないか。

A: 土地利用の選択は基本的に個人の問題。今回の球磨川盆地の下流の方は元々河道であつた所が時間をかけて水田開発をされ、そこに住宅も建つた場所なので、危険度の高い場所。本当に危ない場所は移転することが望ましい。

島谷 皆さん今日はどうもありがとうございます。流域治水はまだ始まったばかりで、私が知っていることも限られていて、いろんな人の知恵がないと、農業、農地、山地と、色々な問題があつて、治水の専門の人だけに任せては良くないので、ぜひ皆でいろいろ勉強や意見交換するような場を作つて、矢部川、筑後川、九州の流域治水が私達の次の世代に繋がれば良いなと思います。

アンケート

* 行政だけに頼らず、自分も住んでるところの地形や田んぼダム等を知り、どんな流域治水ができるのか、それがひいては自分の町以外にも役に立つのか、つながって流域治水になるのかなあと思いました。

〈40代女性・福岡県内〉

* 流域治水は、治水の専門者だけでなく、農地や治水の関係者と連携をとりながら、進めていくべきことと感じた。

〈20代女性・福岡県内〉

* 田んぼダムなどが、きっかけになればいいですね。身近で、所有者がアクセスしやすい方法。個人的には干潟や砂浜が気になります。砂浜に砂が供給される河川であつてほしい。

〈60代女性・福岡県内〉

* 現在、町内での耕作放棄地をいかになくすか

という課題にとりくんでいる。又、防災についても同様。この課題を進行させていく上で大変貴重な話が聞け、感謝した。

〈70代男性・矢部川流域〉

* 「住民は変わる」という言葉がうれしかった。

〈60代男性・矢部川流域〉

* 従来の治水と比べて、時間のかかる方法だと思えますが、環境への負荷が小さくスマートな手法だと思えます。常日頃から(被災してからではなく)議論しておくべきだと思えます。

〈60代男性・矢部川流域〉

* 中山間地の農地や森林の役割をあらためて検証するの必要を感じました。

〈40代男性・矢部川流域〉

* 住民や農家1人1人が行動することで大きなダムに匹敵する効果が得られるかもしれない。

〈矢部川流域〉

* 球磨川流域の災害、大牟田・久留米・矢部村、8年前の星野村と災害の要因の違いがある中で「流域治水」休耕田、棚田の活用など興味深い話でした。現代はコンクリートで水を支配する治水。長い歴史の中での「水と共存の治水」を忘れ、様々な言い伝えを無視した開発による災害が多いように思います。根本からの見直しが必要ではないかと思えます。

〈メールによるアンケート〉

編集後記
 14号は、活動が少なくなつたこと、予算的なこともあり、今までの半分の4Pとなった割には、セミナーは内容が広く深く、まとめるのに四苦八苦しました。新聞は、要約版にし、詳しい内容は別途要点をまとめたダイジェスト版を作成し、FBなどで見て頂ければと思っています。

印刷
 (株)プリンティングコガ
 大川市大字 木73665
 ☎0944(88)0027

球磨川流域治水 知事提言

球磨川流域の持続的発展のための流域治水に関する提言
「早く流す治水から ゆっくり流す治水へ」

提言の趣旨

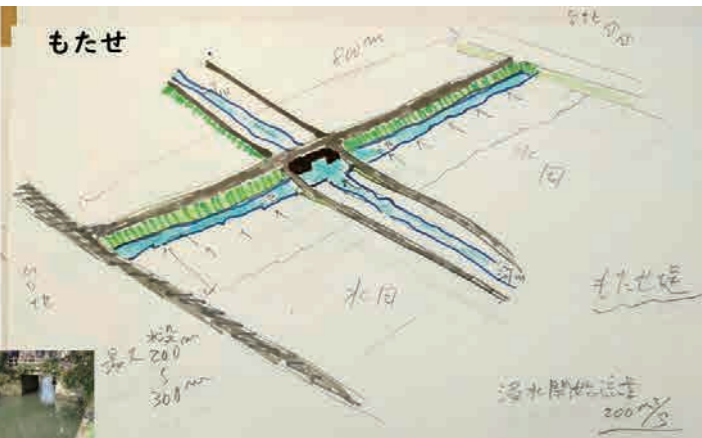
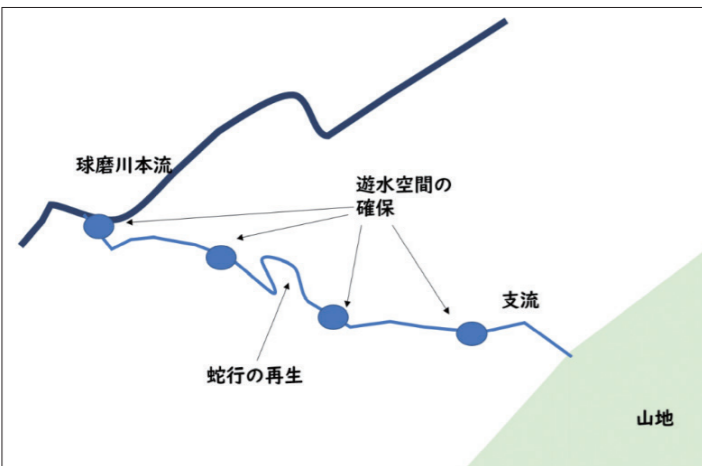
私たち*は、新しい時代の治水対策を実現するために、流域治水、多自然川づくり、Eco-DRR (Ecosystem Based Disaster Risk Reduction:生態系に基づいた防災)、創造的復興、地域循環共生圏などについて研究や実践を行い、議論を重ねてきました。

今般の甚大な球磨川の災害に対して、流域全体を対象とした新しい治水対策により水害からの被害を大幅に軽減することが可能との基本認識のもと、球磨川における流域治水の基本的な考え方といくつかの手法について提言を行うものです。

この提言は気候変動下の新しい時代に対応する、ゆっくり水を流し、住み方を工夫し、よりよい環境の実現を基本とした、新しい考えに基づく流域治水についての提言です。

球磨川流域治水の提言

私たちは、この球磨川流域治水の知事提言という事で、洪水後1週間くらい後に知事に提出した。



本川でどうするか、支流をどうするか、農地をどうするか、山地をどうするか、都市をどうするか、という問題になる。

球磨川の盆地には沢山の支流があり、今回の洪水では、その支流の洪水が同時に合わさり大洪水となった。あふれたのはこの川辺川より下流の盆地と山間部の河川

物を一箇作ると1割ぐらいピーク流量が減り、洪水の時間がすぐ30分位減る。

田んぼダム

田んぼダムは新潟県の見附市では、筒が上に出て筒の中に穴を開けて、そこで流量を絞るという方法で筒の中の穴の大きさをコントロールして(70%くらい流出抑制)している。費用も、1,200ヘクタールで1,500万円と安い。まずは田んぼダムから始まっていくのかなという感じです。

矢部川は、上流の方にはたくさんのお茶畑があつて途中は水田もたくさんあつて、下流に行くると住宅地がたくさんあるという事で、いろいろなメニューを組み合わせないと非常に難しいが、ただここは九州の川の中で一番立派な扇状地があるとところなので、地下に水を浸透させるのは非常に可能性はあるかなと感じています。(終)

球磨川の大水害

球磨川は、10年以上前「ダムによる治水IIダム推進」と「ダムによらない治水IIダムを作らない人」の間で凄く揉め、地域が分断されるような形になって治水が進まな

流域治水とは

流域治水というのは方法論が二つあって、「川に流れてくる水の量をなるべく減らそう」というハード面と「安全なところに住みましよう」と災害の被害を防ぐソフト面がある。

流域治水については福岡で10年以上活動して

きたものと、滋賀県での運動と二つの大きな中心があり、今度は国をあげて取り組む様になっている。

国土の開発が進むと、水が浸透する面積が減ること、色々な場所から一気に水が集まることによって赤線のように流量が増える。

流域で水を貯水するポリウムを増やすやり

方と同時に、流れを遅くするというやり方の両方をやることによって、洪水の流量を減らすことができるという事を考えている。これが流域治水の基本。

都市の対策と都市以外の対策は違う。福岡の樋井川では流域治水市民会議を5年間で40回開催(100名程度の参加)し、樋井川テラスという実験住宅では、100ミリくらいの雨が降っても半分しか流出しない結果となっている。

朝倉水害位の雨が降ると東京の台地上でも氾濫が起きるといふことになる。農村部でどうかというのはこれからの検討事項。

球磨川をどうするか

球磨川は、結局は、

都市ビジョンの提示：あまみず社会という都市ビジョン

あまみず社会

雨水は貯留や浸透させ、一挙に地下・川に入れられない分散型の水管理。水と緑による有機的な社会。

